



わかる・気づく・対応できる！

診療室からはじめる

口腔機能への アプローチ

菊谷 武・田村文誉・水上美樹 編著



- 生涯“食べられる口”を守るための、診療室からのアプローチ
- すぐに使える「説明用媒体」つき！

～スケーリング中にむせ込んでしまう高齢の患者さん





気づける！

さてこの事例、果たして「鼻が詰まっているから」なのでしょうか？ 「口の中に水を溜める」ためには、舌の奥を押し上げて軟口蓋と接触させる「舌口蓋閉鎖」が必要です。これが十分にできないと、スケーリング中に咽頭に水が流れ込み、むせ込んでしまったり、咽頭に流入した水を飲んでしまったりすることがあります (p.59 参照)。特に高齢者ではこの舌口蓋閉鎖がうまくできない方が多く、左ページのマンガも典型的

な事例であり、経験したことがある方も多いのではないのでしょうか？

つまり「スケーリング中にむせ込んでしまう」というのは、口腔機能の低下を示す症状です。このような症状を示す人は、補綴物や修復物を誤嚥、誤飲すること考えられますので、安全にスケーリングを行うためには十分な注意が必要です。

対応できる！

まずはユニットの背もたれを十分に起こして、「水が口の中に溜められやすい位置」を探しましょう (図1)。歯科衛生士にとってはすこしつらい姿勢で、視野も十分に確保しづらくなりますが、患者さんの安全確保を優先させましょう。もし臥位で行うにしても、30°くらい体幹を起こし、さらにヘッドレストを立てるなどして、十分に頸部を前屈させることで舌口蓋閉鎖がしやすくなり、万が一水が咽頭に流入してしまっ

ても誤嚥しにくい姿勢となります (p.60 参照)。

また、咀嚼のトレーニングにあるような舌を後退させる訓練 (p.68 参照) などを行っていただくことで、一部改善する可能性もあります。患者さんとの会話中に簡単にできますので、該当する患者さんがいたら、本書の付録を活用しぜひ取り組んでみてください (図2, p.120 参照)。



図1 口腔内に水を溜められやすい背もたれの角度を探そう！



図2 診療室や自宅のできるトレーニングを指導・紹介しよう！

口腔のトレーニング



舌を前に大きく出します



舌をしっかり奥へ引きます

- ☐ ゆっくり、しっかり舌を動かしましょう
- ☐ できるだけすばやく舌を動かしましょう



舌を出して、片側の口角につけます



舌を動かし、反対側の口角につけます

- ☐ ゆっくり、しっかり舌を動かしましょう
- ☐ できるだけすばやく舌を動かしましょう